

障がい者スポーツ用具 貸出可能物品

県障がい者スポーツ協会におけるイベント等での使用を優先するため、貸出できない場合があります。

ポッチャ



【保有数】13セット
【内容】ボール（赤6・青6・白1）、コンパス（測定器）1、メジャー1
※ランプ（勾配具2台あり）

- ① ジャックボールと呼ばれる白いボール(目標球)を投げる
- ② 対戦する両者がそれぞれ赤と青の6球を投げ合い、自球をよりジャックに近づけたチームまたは個人が勝者となる。

※手で投げることのできない選手はキック、あるいは競技アシスタントのサポートを受けながら、「ランプ」と呼ばれる投球補助具(勾配具)を使ってボールを転がすことができる。

フライングディスク (アキュラシーゴール)



【保有数】6セット 【内容】ゴール1、ディスク20

・5mまたは7m離れたアキュラシーゴール（直径91.5cmの円形）に向けて10回投げ、その通過回数を競います。

※投げ方の基本はバックハンドスロー。しかし、投げ方に規則はないため投げやすい方法で良い。ディスクの持ち方や、真っすぐ飛ばすちょっとしたコツを知ることでも楽しさも倍増！

ニュースポーツ用具・障がい者スポーツ用具の利用に関する
お申込み・お問い合わせは...

島根県社会福祉協議会（島根県障害者スポーツ協会）

〒690-0011 島根県松江市東津田町1741-3いきいきプラザ島根5F

☎：0852-20-7770

※ 用具の予約は先着順となります。お早めにご連絡ください。

※ 電話および用具の貸出対応は、原則、8時30分～17時15分です

ニュースポーツ用具 貸出可能物品

ニュースポーツは、20世紀後半以降に新しく考案されたスポーツで、年齢や体力に関わらず誰もが楽しめるスポーツとして近年注目されています。介護予防にも最適です。是非ご活用ください♪

アトラックゲーム（大ワナゲ）

【保有数】5セット【内容】リング5、スタンド1



- ・ アトラックゲームは、ビッグサイズの輪投げです。
- ・ 投球位置とボールの距離は5m。1セット5個の投球リングを1ラウンドに連続投球します。1ラウンドごとに相手プレイヤーと交代し、5ラウンドを繰り返します。得点は1ラウンドごとに記入し、5ラウンドの合計で勝敗を競います。
- ・ 投げた投球リングがボールに入った場合を「ストライク」、入らなかった場合を「ミス」と呼びます。単発ストライクを1点、2連続ストライクを3点、3連続ストライクを6点、4連続ストライクを10点、5連続ストライクを15点とします。

公式ワナゲ

【保有数】1セット【内容】ボード1（得点棒29本、脚2本含む）リング（赤4・黄4・青1）



単独投輪方式（1人が9本（赤・青・黄）全部のリングを続けて投輪する）

- ① 輪投げ台の固定ラインと投輪ラインを2mの間隔をあけて引く。
- ② 1人の投げる輪は1回に連続9本とする。
- ③ 的棒の下の板にかかっている数字の合計を1回の得点とする。
- ④ ただし、次のようにいった場合は、得点が加算される。
※縦、横、斜めに3つ並んでいったとき→1列につき15点加算
※全部の棒に入ったとき→300点
※（1列の合計得点15点×8列×2+パーフェクト点60点）

クオリティ

【保有数】4セット 【内容】ボード1 リング（金10・銀10）



- ① 投げる順番を決める。先攻は銀色、後攻は金色のリングを使う。
- ② シングルスは交互に1個ずつ、各々合計10個のリングを片手で投げる。ダブルスは、先攻・後攻交互に5個ずつ、1チーム合計10個のリングを投げる。これを2回行う。
※得点は、ボード上の点数ごとに色分けされたエリアの内、リングが半分以上かかっているエリアの点数となる。

グランドゴルフ

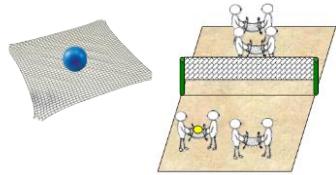
【保有数】8セット 【内容】スティック6・ボール6：2セット



- ・ スタートマットというボールを置くゴムマットから1打目を始める。
- ・ 旗の付いているホールポストにボールが入るまでの打数を数えて、その打数が少ない方が勝ちとなる。
※もし、1打目でホールポストに入った場合は、ホールインワンとなり、全ホールの合計打数からマイナス3点として集計する。

ネットネットゲーム

【保有数】 ネットのみ83枚 ※ボールは各自で準備



- ・ バドミントン用コートを使用し、2組対2組で対戦する。
- ・ ネットを引っ張り、その張力でボールを飛ばし合う。
- ・ ボールの捕球に失敗し、床に落とすと相手の得点となる。
- ・ ペアの2人の呼吸が合わないとボールはうまく飛びません。

ユニホック

【保有数】 1セット 【内容】 スティック（黒6・白6）、ボール1



- ・ 2チームによってプレーする。
- ・ 相手チームのゴールにスティックを使ってボールをシュート（ストローク）し得点を競うことと、相手チームのボールを得点させないように防ぐことによって展開される。

ファミリーバドミントン

【保有数】 2セット 【内容】 ラケット6 シャトル1



【特徴】

- ① バドミントンと比べてコート内で3名いるため、初めての人でも容易にボールを打つことが出来る。
- ② ラケットのシャフトが短いため、手のひらで打つ感覚でボールを打てる。
- ③ スポンジボールにバドミンの羽根をつけているため、スピードが抑えられ、初心者でもラリーが続く。また、下向けにボールを打つことが禁止されている。

ニチレクボール (室内ペタンク)

【保有数】 20セット 【内容】 ボール（赤6・青6）、目標球1、サークル1



- ・ ペタンクゲームと同様で、サークルの中に立って黄色の標的球に向かって、2チームがそれぞれ赤と青のボールを投げ合い、寄り近づくことによって得点を競うゲーム。
- ・ 特殊な柔らかいボール（直径70mm・重量400g）を使用するので、体育館や会議室などで床をいためることなくプレーが楽しめる競技。
- ・ 投球は基本的に手の甲を上にしてボールをつかみ、アンダーハンドスローで逆回転させるようにすると良い。
- ・ 標的にボールを当てて動かすことも認められていますので、常に大逆転の可能性がある競技。
- ・ プレイヤー1人対1人のときは、ボールを6個ずつ、2人対2人のときは3個ずつ、3人対3人のときは2個ずつ持つ。
- ・ 1試合13点先取ですが、競技時間が少ないときは得点の変更も可能。

ペタンク

【保有数】 5セット 【内容】 ボール12、目標球2（ゲームで使用は1）



- ・ 目標球（ビュット）にブル（重いボール）を投げ合って、相手より近づくことで得点を競うゲームです。
 - ・ 相手のブルに当ててはじき飛ばしたり、味方のブルに押すように当てたりして、ビュットに近づくこともできます。ビュットに当てて味方のブルに近づくこともできます。
- ※サークルはついていません

スカットボール

【保有数】 3セット 【内容】 スティック2、ボール（赤5・白5）、カーペット1、的1



- ・ 敷物（マット）の上にスカット台を乗せ、ボールをスタートラインからスティックで打ってスカット台の得点穴にボールを入れるゲームです。
- ・ 競技は、団体又は個人で行い得点の高い穴に多く入れ、得点を競うゲームです。穴の特殊なカーブがハラハラドキドキゲームを演出します。

ビーンボウリング

【保有数】 2セット 【内容】 ピンセット1、マット1、ボール（赤・白各2）



- ・ ピンの配列を工夫（横列）し、簡便化したもので、その名の通りピンにボールが当たると豆がはじけるように反転したり、自動的に戻る（リバウンド）ようになっています。
- ・ コントロールやバランスを競うゲームで、体格や体力に関係なく、老若男女だれでも楽しめることから、このニュースポーツに注目が集まっています。

カローリング

【保有数】 2セット 【内容】 ローラー6個、的紙：1枚



- ・ 氷上で行うカーリングをフローで手軽にできるように考えられた全く新しいスポーツ。
- ・ フローコートで、1チーム3人のプレイヤーが6個のジェットローラを、コートの先端にある直径90cmのポイントゾーンに向け、相手チームのプレイヤーとジェットローラを交互に走行してぶつけ合い、得点を競うゲームである。
- ・ チームプレーを楽しむスポーツであり、簡単なルールと使いやすい用具で、特別な技術も力も必要としないので、子供から高齢者まで手軽に楽しめるスポーツである。

ディスクゲッター

【保有数・内容】 的枠：1台、ディスク26枚



- ・ フライングディスクを投げ、9枚のパネルを何枚抜くことができるかを競うゲームです。
- ・ ナンバーをポイントに見たてて得点を競ったり、ビンゴを狙うなど、アイデアは無限に広がります。距離や投げるフライングディスクの数をえることによって、自由に楽しんでいただけます。

スカイクロス

【保有数】 リング120、コーン26 【内容】 リング、コーン



布製のリングをコーンに向けて投げ得点を競う輪投げとゴルフをミックスさせた競技

- ① 最初に投げる順番を決める。
- ② 1人ずつスタートラインからリングを目標のコーンに向けて投げる。
- ③ 1投目が終わったら落下地点にいき、その場から2投目を投げる。2投目からの投げる順番はコーンまでの距離が長い人から投げる。
- ④ これを繰り返し、コーンにリングが入ったら、そのコースは終了となり次のコースに進む。
- ⑤ 以降のコースで1投目を投げる順番は、直前のコースで1番大きいスコアを出した人から投げる。
- ⑥ 通常は10名～14名が1組となり、いくつかのコースを回る。